

別記様式

令和4年度 学校評価報告書

令和5年3月24日

北海道教育委員会教育長 様

北海道旭川東高等学校長 三条 歩

次のとおり令和4年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

【全日制課程】

自らの感性や創造性を磨き、自分の人生や社会とのつながりを実感できる生徒、自らの能力を引き出し、その能力を将来会う課題の主体的な解決に活かすことのできる生徒、心豊かで、リーダーシップを発揮できる生徒を育成する。

【定時制課程】

一人間性豊かな生徒の育成を期して－

- (1) 基本的な生活習慣の確立に向けて、自ら努力する姿勢をもった生徒を育成する。
- (2) 学習への意欲を高め、進路目標の実現に向けて努力する生徒を育成する。
- (3) 心身ともに健全で、思いやりの心と感謝の気持ちで挨拶と笑顔のある生徒を育成する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

【教育活動に対する評価】（全日制課程）

評価項目	自己評価の結果	左記に関する学校関係者の評価
学習指導	・指導方法改善のための検証と研修を行った。さらに観点別評価の整合性を取る必要がある。 ・「ICTを効果的に活用」できるよう定期的にミニ研修会を行い一定の効果があつた。 ・たよりの発行や展示方法の工夫をし、読書に親しむ環境づくりができた。 ・令和4年度に編成した新しい教育課程を点検し、継続を確認した。	さらなる具体の取組が必要であると思います。 読書の位置づけが難しくなっていると感じます。
改善方策	・観点別評価の整合性を取り、明確な説明を実施する。 ・学習習慣の定着を図るために、今後も週1000分の定着を呼びかける。 ・今後も、読書に係る環境整備に努める。 ・具体的教育活動をスクール・ミッションにひも付けることを継続する。	
生徒指導	・生徒指導集会を実施し、ルール・マナー・モラルに係る理解を向上させることができた。 ・様々な制限が残る中、工夫した生徒会活動ができた。また、R5高校総体に向けた取組や哈爾浜との姉妹都市交流にも取り組むことが出来た。 ・いじめの未然防止のための生徒観察・面談・対応ができた。 ・部活動数の見直しを継続することができた。	現在の取組を継続してください。
改善方策	・現在の指導を継続し、様々な状況に応じて、柔軟に対応できる生徒の育成を図る。 ・旭東DPとの関連も考慮して、臨機応変に活動していく。 ・今後も迅速に対応するとともに、情報発信も適切に行う。 ・顧問と生徒の状況を踏まえて、持続可能なあり方を検討していく。	
進路指導	・大学入試に関わる情報を生徒や保護者にリモート・通信も含め適切に提供することができた。 ・外部講師講演会を実施し、進路意識の醸成に繋げることができた。 ・総合探究や課外活動をとおして、学力向上とともに、課題を予見・解決し、新たな価値を創造できる人材の育成を図ることができた。	学びの履歴への対応がしっかりとできています。
改善方策	・大学入試改革に関わる変更等について適切に情報提供し、指導を充実させる。 ・旭東DPやスクールミッションと教育活動をひも付ける。 ・総合探究や課外の様々な活動をとおして、有為な社会人・国際人の育成を図る。	

健康・安全指導	・ 困り感を持った生徒の対応について、学年との連携が深められた。 ・ 保健室を通じて、生徒の健康及び生活習慣の指導を行い、自己管理能力の向上を図ることができた。 ・ 危機管理体制の見直しを図り、非常災害時の対応の体制を構築できた。	・ 個別支援を組織的かつ適切に行う。 ・ 保健だよりを定期的に発行し、健康に対する意識をさらに高める。
改善方策	現在の取組を継続してください。	

【学校運営に対する評価】（全日制課程）

評価項目	自己評価の結果	左記に関する学校関係者の評価
信頼される学校づくり	・ 生徒・保護者・教職員アンケートを活用し、組織として業務改善を図ることができた。 ・ HP・Twitterを活用して情報発信することができた。 ・ アンケート結果を年度末評価資料として活用し、自己評価に繋げることができた。	積極的な情報発信と課題把握を継続してください。
改善方策	・ HP等について取組を継続する。 ・ 低評価の項目に対し関係分掌等で改善策を検討し、公表・実践する。	
組織運営	・ 職員会議等においてICTを活用した効率的な運営ができた。 ・ 校内組織体制の見直しを継続し、検証することができた。 ・ 小さな改善は進んだが、まだまだ課題が多い。	働き方改革の取組をさらに進め、課題の解決を図ってください。
改善方策	・ 勤務時間を意識した会議の設定を徹底する。 ・ 改善内容についての検証と研修を継続して行う。 ・ 管理職だけではなく教職員ひとり一人の意識を高め、改善を図る。	
教職員の資質向上	・ 令和4年度編成の教育課程について評価を行い点検・確認することができた。 ・ 適時、服務規律の保持に係る研修を実施し、不祥事防止に向けた意識を高めた。	さらなる研修の取組を進めてください。
改善方策	・ 校外研修への積極的な参加を促すとともに、研修後の情報共有を行い、学校全体の研修力を高める。 ・ 啓蒙活動を継続する	
公表方法	・ 学校評議員会および同窓会・PTA・定時制教育振興会への公開 ・ ホームページへの掲載	

【教育活動に対する評価】（定時制課程）

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程学習指導	・ 本校定時制の実態に合った開かれた教育課程表を編成した。 ・ 生徒の実態把握に努め、授業内容を工夫して授業満足度の向上に努めた。 ・ 組織的な指導を心掛け、あらゆる機会ですべての生徒への配慮やマナー指導を実施した。	・ 学力の差がある場合の全体指導は難しいと思います。 ・ 三修制を希望する生徒に対して、継続して指導をお願いします。
改善方策	・ 新学習指導要領の趣旨に則り、生徒の希望や地域の実態に即した教育課程編成について検証を続ける。 ・ 授業評価アンケートにより授業改善の研修、情報交換を行う。 ・ 「学び」に目を向けさせるよう、授業改善に継続して取り組む。	
生徒指導	・ 生徒会による主体的な活動を重視した。 ・ 継続的な指導をしているが、スマホ依存の生徒が多い状況である。 ・ 年3回の面談週間及び日常的な個人面談で生徒の悩みを捉え、安心して通える学	・ 改善の方策に、生徒が主語になるような項目もあると思います。

	校づくりに努めた。 ・定通体連後も、近隣の定時制高校と合同練習を行ったり、全日制の練習に参加したりと意欲的に活動している。	
改善方策	・各行事の目的や目標について、事前確認させ、行事後には達成状況等の振り返りを実施することで、主体性を養う。 ・年度始の周知を重点的に行う。 ・日常の教育活動において、生徒とのコミュニケーションを大切にし、小さな変化を見逃さずに対応する。 ・生徒の主体性を重視しつつ、適切な指導を心掛ける。	
進路指導	・進路講話を2回実施。求められる人物像や進路志望について考えを深めさせることができた。 ・家庭との連携が難しいところもあったが、確認を取りながら指導を行った。	・今年度は退学者がいなかったことは素晴らしいことである。生徒の進路実現に向けて今後も指導して欲しい。
改善方策	・キャリア教育の年間計画（進路シラバス）の作成などを通し、計画的にキャリア教育を推進する。 ・系統的な進路指導を実践する。	
健康・安全指導	・パートナーティーチャーの派遣を受け、個別の指導について共有した。 ・外国籍の生徒についても大学教授からご助言をいただき、教職員の意識が変化した。 ・部外者の出入りはなく、生徒は安全な状態で学んでいる。 ・災害時等の夜食給食のあり方について整備した。 ・1年生で適性検査を実施。結果を教職員間で共有し、生徒へのアプローチに役立てた。	・いろいろなきっかけで入学してきた生徒が、自立心が芽生えるアドバイスや指導を今後お願いします。 ・中学時代に不登校傾向だった生徒が、定時制で何とか頑張ろうとしている。定時制の役割は変わってきているが、今後も生徒のために指導をお願いします。
改善方策	・今後も外部専門家の助言を参考に個に応じた支援のあり方について理解を深め、支援に必要な環境整備を行う。 ・危機管理マニュアルは毎年見直し、必要に応じて継続的に整備していく。 ・生徒自身が検査の結果を受けて、今後どのような行動を取るべきか考える時間を設ける。	

【学校運営に対する評価】（定時制課程）

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
地域に信頼される学校作り	・各分掌で課題について随時検討し、迅速に改善できた。 ・ホームページで行事はもちろん日常の活動について発信できた。 ・PTAの活動は昨年度に比べて充実できた。	・PDCAサイクルは想像よりも難しいです。
改善方策	・今後もPDCAサイクルを確立させるとともに、評価会議資料を改善し、重点課題と達成状況の検証を促進する。 ・学校説明会等で、ホームページを見ている声が寄せられた。生徒の活動の様子がわかる情報発信を行う。 ・コロナ禍で活動できなかった分、接点を増やす様々な機会を設ける。	
組織運営	・Googleドライブの活用が進み、資料等の共有がしやすくなった。 ・各分掌とも、組織的に課題改善に向き合い、迅速に対応できていた。 ・優先順位を考慮した働き方を実践できた。	・継続して取り組んでください。
改善方策	・会議の目的を明確にするとともに、的確な説明を実践する。 ・業務の分担の見直しを図るとともに、行事等においては分掌の枠を超えた業務分担の平準化を図る。 ・教職員の人数が限られていることから一人一担当になりがちのため、チームで業務に当たるよう分掌等の人員配置や業務分担を見直す。	
教職員の資質向上	・生徒の学びが深まるICT活用の研修に積極的に参加した。 ・ヤングケアラーの校内研修では情報共有を行い、生徒理解を深めることができた。 ・特定の研修を受けた先生が研修後に内容の情報提供を行うことで、全体への学びに繋がった。 ・今年度は教職員の半分が入れ替わったが、気軽に話ができるよい雰囲気ができている。	・継続して取り組んでください。
改善方策	・ICT活用の情報共有を密に行い、授業改善に努める。 ・生徒に還元できているか、研修後の振り返りを充実させる。 ・適度な同僚性を確保しつつ、よりよい職場環境の整備に努める。	
公表方法	・学校評議員会および同窓会・PTA・定時制教育振興会への公開 ・ホームページへの掲載	

3 添付資料

- (1) 自己評価書
- (2) 学校関係者評価書
- (3) 学校評価（保護者）アンケート集計結果